

「協和小学校の中俣（下）川踊り伝承活動の取組」

1 学校名

垂水市立協和小学校

2 学年・人数

1年生6人 2年生3人 3年生4人 4年生9人 5年生7人 6年生6人（計35人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月6日（水）・12日（火）・21日（木） 8：30～9：15

1・2年：創意，3～6年：総合的な学習の時間

令和6年1月23日（火）・30日（火）・2月6日（火） 8：30～9：15

3～6年：総合的な学習の時間

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月24日（日） 第77回運動会 【1～6年】

令和5年11月2日（木） 県民週間での発表 【3～6年】

令和5年11月15日（水） 垂水市小・中学校合同音楽会 【3～6年】

令和6年2月10日（土） 学習発表会 【3～6年】

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

中俣（下）川踊り（なかまたしもかわおどり）

(2) 由来

川踊りは、川内おどり、水神おどりともいわれ、水神を祭り、雨乞い豊作を祈って奉納されてきた踊りである。保存会の記録によると、上川踊りは今から150～160年前に坪内作馬という人が、下川踊りは400年位前に中俣の殿様が、それぞれ共に伊集院から伝えてきて踊るようになったとされる。また、戦後途絶えていたが、昭和45年に保存会がつくられ復活し、今もなお、様々な行事等で踊りを披露・継承している。（鹿児島県HP参照）

(3) 構成等

「中俣川踊り」には中俣上川踊り、中俣下川踊りの2つがあり、演目やテンポが異なる。踊りは「鐘」「太鼓」「鼓」「三味線」といった楽器により演じられる。（鹿児島県HP参照）

5 保存会や地域との連携の具体

中俣（下）川踊り保存会で計画されている毎月の定例会（練習会第1土曜日）に、校長・教頭（保存会へ加入）、職員が参加し、川踊りの練習をしたり、学校での練習計画の打合せをしたりして、連携を図ってきた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

毎月の定例会での情報交換や若宮神社での行事への参加を通して、郷土芸能のよさや保存会の方々の想いを知ることができ、そのことを児童へより具体的に伝え、児童の練習やリハーサルでの打合せ等も大変細やかに実施することができた。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



< 運動会に向けた練習 >



< 運動会での発表 >



< 県民週間での発表 >



< 市小中合同音楽会での発表 >

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【2年児童】

初めは難しかったけど、保存会の方や5・6年生が、優しく教えてくれたので覚えることができた。来年は、もっと上手に踊りたい。

【教職員】

例年は、3～6年生のみ練習に参加していたが、今年度は全校児童で取り組んだ。上学年が下学年に優しく声掛けする姿も見られ、全校児童で取り組むよさを実感した。また、地域の方々から、郷土の伝統芸能を学び、多くの方々の前で披露することは、とても価値があると思った。

【保存会から】

児童数が減ってきている中、子供たちが「中俣（下）川踊り」を伝統芸能として、下の世代にもしっかりと受け継いでいこうとする気持ちが感じられ、うれしく思った。